

# COUNTA関数

## 使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。  
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

# COUNT系関数の「使い分け」早見表

## COUNT系関数の「使い分け」早見表

データを数える関数は主に3つあります。「何を数えたいか」によって使い分けるのが鉄則です。

| 関数名        | 読み方       | 数える対象（カウントするもの）            |
|------------|-----------|----------------------------|
| COUNT      | カウント      | 数値のみ<br>(日付・時刻も含む)         |
| COUNTA     | カウント・エー   | 空白以外のすべて<br>(文字、数値、式、エラー値) |
| COUNTBLANK | カウント・ブランク | 空白セル                       |



**覚え方のコツ:** COUNTA の "A" は、"All"(すべて)や "Alphabet"(文字)の A と覚えましょう！

# COUNTA関数の基本構文

## COUNTA関数の基本構文

---

COUNTA関数の使い方はCOUNT関数と同じく、範囲を指定するだけです。

```
=COUNTA(値1, [値2], ...)
```

**使用例：**出席簿で「出席（○）」や「遅刻（△）」の人数を合計したい場合。

※文字が入力されているセルを数えたいので、COUNTではなくCOUNTAを使います）。

```
=COUNTA(C2:C31)
```

**【注意】 「見かけ上の空白」 にご用心**

## 【注意】「見かけ上の空白」にご用心

COUNTA関数を使う上で、最も注意すべきなのが「空白に見えるのに数えられてしまう」現象です。COUNTAは「データが入っているセル」を数えるために、以下の場合も「データあり」とみなします。

| ケース           | COUNTAの判定       | 対策                |
|---------------|-----------------|-------------------|
| 完全に未入力        | カウント <b>しない</b> | そのままOK            |
| スペースが入っている    | カウント <b>する</b>  | TRIM関数などでスペース削除   |
| 数式で空文字（""）を表示 | カウント <b>する</b>  | COUNTIF関数などで工夫が必要 |
| 「0」が表示形式で非表示  | カウント <b>する</b>  | 値そのものを削除          |

 **ポイント：** IF関数などで 空文字（""）を表示させているセルは、COUNTAでは「1」と数えられてしまいます。その場合は COUNTIFあるいは COUNTBLANK との引き算などを検討しましょう。

# 【実践】出席簿・タスク管理での活用

## 【実践】 出席簿・タスク管理での活用

---

実務では、数値以外の「状態」や入力の有無を数えるのに重宝します。

### ケース1：タスク管理表

「完了日」が入力された件数（＝完了したタスク数）を数える。

- 日付は「数値」ですが、備考欄などの「テキスト」が入る可能性もあるため、COUNTAの方が安全に「入力済み」をカウントできます。

### ケース2：アンケート回答数

自由記述欄に「何か書いた人」の人数を数える。

- 文字列を数えられるのはCOUNTA関数ならではの強みです。

## 【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。